



Contents

- 02 世界で活躍する人材に
工学部長 六郷 恵哲
- 03 国際交流
第1回国際ジョイントミーティングを開催
- 07 平成27年4月
グローバル環境・エネルギーコース(GU-GLEE)開講
- 08 新任教員の横顔
- 10 各賞受賞者の声

F a c u l t y o f E n g i n e e r i n g G i f u U n i v e r s i t y



2015 No.25

岐阜大学工学部ニュース 匠



国立大学法人

岐阜大学



世界で活躍する人材に

工学部長 六郷 恵哲

学生の皆さんには、世界のどこへでも気軽に出处かけて活躍する人材になっていただきたい。世界で活躍するためには、専門分野での能力やコミュニケーション力などに加え、英語等の言葉の運用力や異文化への興味などが大切です。ここでは、工学部・工学研究科の話題として、学生の短期派遣と受入、英語によるコースの設置、海外学術交流協定（以下、交流協定）の締結、グローバル化推進室の設置について紹介します。

学生の短期派遣と受入

平成26年度には23名の学生を夏休み等に数週間、オーストラリア、韓国、インドネシア、インドなどの協定大学へ、旅費を支援して派遣しました。協定大学の研究室に滞在して、同年代の学生と一緒で過ごすことが特徴です。短期留学により、英語が得意な学生は自信をつけ、そうでない学生も英語の修得意欲が高まります。短期留学を経験したあと、長期留学に挑戦する学生もいます。一方、海外の協定大学からは、約20名の学生を短期に受け入れています。

英語によるコース GU-GLEE

海外の協定大学からの留学生と日本人学生とが英語による授業と一緒に学ぶ「グローバル環境・エネルギーコース（GU-GLEE）」を、大学院博士前期課程に平成27年4月に開講しました。専門の内容を学ぶだけでなく、日本人学生の皆さんには世界の魅力や国際コミュニケーションの重要性について、留学生の皆さんには日本の社会と技術と産業についても理解を深めていただくことを期待しています。

海外の大学との交流協定

交流協定を結んだ海外の大学では、授業料の免除、教育研究施設の利用などで優遇されると同時に、学生や教員の交流や共同研究が円滑になります。交流協定には、学部レベルのものと大学レベルのものがあります。工学部は、海外の16大学と学部間の交流協定を結んでいます（うち9大学とは平成26年度に締結）。大学レベルでは、海外の45大学と交流協定が結ばれ

ています。別掲記事のように、平成26年12月には協定大学から関係者を招いて、第1回国際ジョイントミーティングを開催し、情報を交換し、交流に携わる教員間の絆を強めました。

グローバル化推進室

上述の学生の短期派遣と受入や

英語によるコースGU-GLEEの運営に加え、国際交流行事の運営、工学部の各種文書やHPの英語化などを進めるため、特任助教やネイティブ教員等を配置したグローバル化推進室を平成26年9月に設置しました。

協定大学名	国名	協定締結日
全南大学校工科大学	韓国	平成14年2月6日
柳韓国大学	韓国	平成22年9月29日
ベングル大学	インドネシア	平成23年7月20日
サー・パラシラムブ・カレッジ	インド	平成24年9月17日
忠南大学	韓国	平成25年1月18日
マドリッド・カルロス三世大学	スペイン	平成25年7月9日
マレーシア国民大学	マレーシア	平成26年1月22日
インド工科大学グワハティ校	インド	平成26年4月17日
ドルトムント工科大学	ドイツ	平成26年6月23日
マンダレー大学	ミャンマー	平成26年8月25日
ブラヴィジャヤ大学	インドネシア	平成26年12月16日
ヤダナボン大学	ミャンマー	平成26年12月16日
メティラ大学	ミャンマー	平成26年12月16日
ディアンキマティ工科大学	ケニア	平成26年12月16日
トゥンク アブドゥル ラーマン大学	マレーシア	平成26年12月16日
慶北大学	韓国	平成27年2月7日

国際交流

第1回国際ジョイントミーティングを開催

岐阜大学工学部では、海外学術交流協定大学との第1回国際ジョイントミーティング（国際合同会議）を平成26年12月17日（水）、18日（木）に開催しました。工学部と密接な関係にある海外13カ国の協定23大学の学長、学部長、リエゾン（連携）担当教員を招待し、国際交流に関する教育システムや留学制度などの取り組みについて情報と意見を交換しました。

1日目 12月17日（水）
岐阜都ホテル

六郷恵哲工学部長、森脇久隆岐阜大学長の挨拶の後、瀬瀬守副工学部長から、岐阜大学ならびに平成27年4月開講のグローバル環境・エネルギーコースの紹介がありました。続いて、協定23大学の出席者より、各大学の沿革、教育目標、カリキュラム、国際交流などについての紹介（司会：竹内寛子特任助教）と総合討論（司会：リムリーワ准教授）があり、大学同士のネットワークが形成され相互理解が深まりました。パンケット（司会：川崎睦助教）では、岐阜県立岐阜総合学園高等学校太鼓部によ

る力強い和太鼓・笛演奏と工学研究科機械システム工学専攻の大学院生清水隆宏君による軽やかな津軽三味線演奏が行われました。

2日目 12月18日（木）
工学部201番教室

協定23大学の出席者より、留学制度、カリキュラム、奨学金、留学生センターの活動などのグローバル化に関する取り組みの紹介と総合討論（司会：リムリーワ准教授）がありました。文部科学省よりスーパードグローバルハイスクールに指定されている岐阜県立大垣北高等学校の生徒との交流会（指導：川瀬真弓特任助教）もありました。閉会式では、交流を一層活発にするための共同宣言書が23大学の代表者へ手渡されました。ディナーでは、インドネシアからの留学生による歌と民族ダンスが披露されました。

今後、国際ジョイントミーティングを継続的に行うことで、各大学とより深い協力関係を構築し、国際能力に優れた学生を育成することはもとより、各大学における教育・研究活動の活性化が期待されます。



参加しよう！ 飛び立とう海外へ！

工学部長・工学研究科長 六郷 恵哲

岐阜大学工学部・工学研究科では、グローバルな学習環境の場として、海外の協定大学へ学生を短期派遣するとともに短期受入を行っています。海外の協定大学に学生として数週間滞在し、研究や学習を行いながら滞在先の学生の皆さんと交流し生活を体験できることが、この短期留学の特徴であり、通常の海外旅行では味わえない内容です。参加募集を4～5月頃に行い、費用の一部を支援して、主に夏休み中に学生の皆さんを協定大学へ派遣しています。

今年の短期留学報告会では、体験レポート集と開催案内がグローバル化推進室により作成されました。体験レポートには、留学した学生の皆さんの驚き、喜び、達成感、希望などが詰まっています。まだ留学していない学生の皆さんには、報告を聴きレポートを読んで、来年はぜひ短期留学する側で参加していただきたいと思っています。

短期留学の魅力については、参加した学生の皆さんに語っていただくのが一番です。体験レポートの中から、機能材料工学科4年生の真下小春さんのものを選び、その内容の一部を抜粋して次に紹介します。

アンダラス大学に短期留学した 真下小春さんのレポートから抜粋

私は一度目の留学で異文化交流の楽しさを、今回の留学で英語が伝わることの達成感を学びました。海外経験はいつも私を成長させてくれます。そして行く度に視野がどんどん広がっていくのが分かります。高校一年生のあの時「行く」という決断をしていなければ今のアクティブな自分はいなかったでしょうし、今回の挑戦がなければ母国を大切にしようという思いは芽生えなかったかもしれません。

どんなに少ない期間でも旅行ではなく留学という目的でその土地の暮らしを体験することで、あなたにとって今までは全く違う新しい世界が見えてくると思います。…今回の留学で「自分の英語は伝わる」という自信が持てたと同時に、多少文化が違って暮らしていると感じました。…学生という身分でなくなってもアクティブに世界に飛び出していけるような人でありたいと思います。

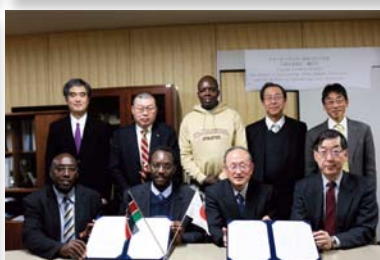
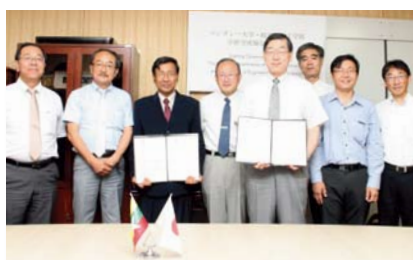
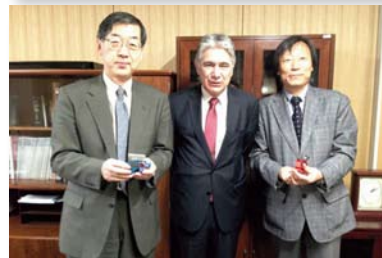


平成26年度の工学部の国際交流活動

◆学術交流協定締結校

(括弧内：国名・締結日)

- (1) インド工科大学グワハティ校 (インド, H26.4.17)
- (2) ドルトムント工科大学 (ドイツ, H26.6.23)
- (3) マンダレー大学 (ミャンマー, H26.8.25)
- (4) ブラヴィジャヤ大学 (インドネシア, H26.12.16)
- (5) ヤダナボン大学 (ミャンマー, H26.12.16)
- (6) メティラ大学 (ミャンマー, H26.12.16)
- (7) ディアンキマティ工科大学 (ケニア, H26.12.16)
- (8) トウンク アブドゥル ラーマン大学 (マレーシア, H26.12.16)
- (9) 慶北大学校工科大学 (韓国, H27.2.27)



◆国際合同会議・セミナー、交流会開催

(括弧内：開催日)

- (1) インドネシア・アンダラス大学との第一回国際合同セミナー (H26.4.2-6)
- (2) マレーシア国民大学との第一回国際合同セミナー (H26.7.31-8.1)
- (3) 第一回国際ジョイントミーティング (H26.12.17,18) 詳細は別ページに掲載
- (4) 韓国・全南大学校工科大学の優秀学生との交流会 (H27.1.21-22)



◆海外大学教員の工学部訪問

(括弧内：訪問日)

- (1) ブラジルよりカンピーナス大学, サンパウロ連邦教育科学技術大学の教員5名 (H27.2.17)
- (2) インド工科大学グワハティ校より教員2名 (H27.2.25-27)
- (3) ポーランド・クラクフ工科大学より教員5名 (H27.3.9,10)



◆外国人学生の工学部訪問

(括弧内：訪問日)

- (1) JENESYS2.0 (21世紀東アジア青少年交流計画) マレーシア学生訪日団26名 (H.26.4.18)
- (2) JENESYS2.0 ベトナム学生訪日団27名 (H26.6.27)
- (3) フランス国立高等電信大学・テレコムパリテック大学生13名 (H26.7.23)
- (4) JENESYS2.0 東ティモール学生訪日団19名 (H27.2.13)



岐阜大学工学部の国際交流活動の詳細は、工学部公式ホームページ「トピックス」でご覧になることができます。

岐阜大学工学部公式HP トピックス一覧

<http://www.eng.gifu-u.ac.jp/topics/list.htm>

平成27年4月グローバル環境・エネルギーコース (GU-GLEE) 開講

教務担当副学部長 瀨 守

平成27年4月、工学研究科では博士前期課程環境エネルギーシステム専攻に、環境科学やエネルギーを中心とした工学研究科の強み分野の最先端技術を修学するグローバル環境・エネルギーコース (Gifu University Global Environment and Energy Course (GU-GLEE)) を新設しました。これは優秀な海外からの留学生と日本人学生が英語のみで履修するコースで、工学部として初の試みです。環境問題やエネルギー問題に関する講義をはじめ地域のグローバル企業との連携強化につながるグローバルインターンシップ(留学生は日本国内の優良企業で、日本人学生は海外で研修)などを開講します。留学生には秋季入学も整備しています。初年度は、留学生3名(インドネシア、マレーシア、ミャンマーから各1名)と日本人学生3名の計6名が1期生として入学しました。優秀な留学生を確保するために、本コースの留学生には検定料・入学金・授業料の免除や奨学金獲得支援、大学内の国際交流会館の優先利用など最大限の支援がなされ、本コースの開講と発展に大きな期待が寄せられています。

工学部では、これまで多くの留学生を受け入れ、高度な専門性を有した

エンジニアとして彼らを世界に輩出してきました。現在、その卒業生らが現地の大学の主要なポストに就いて活躍しています。彼らとの強固な関係が工学部との学部間学術交流協定につながり、学部長が書かれたように、現在協定校は8か国(インド、インドネシア、韓国、ケニア、スペイン、ドイツ、マレーシア、ミャンマー)16校にのびります。これらの協定校との関係を活用することで、本学学生を安全・安心に派遣することができ、また先方からの学生も安心して受け入れることができます。今回のGU-GLEEに受け入れた留学生3名もこの協定大学から推薦され選ばれた学生です。GU-GLEEの開設により、これら協定校との交流が益々盛んになりより強固な信頼関係が構築されていくことでしょう。

グローバル化の流れはとどまることを知らず、工学部としてもこのGU-GLEEをひとつの足掛かりとして、今後予定されている大学院改組においても、また将来的には学部においても英語による講義など方リキュラムの充実やグローバルコースの増設などにより、さらなるグローバル化に対応できる人材育成に最大限の努力をしなければなりません。



GU-GLEE のホームページ

シミュレーションによる材料設計



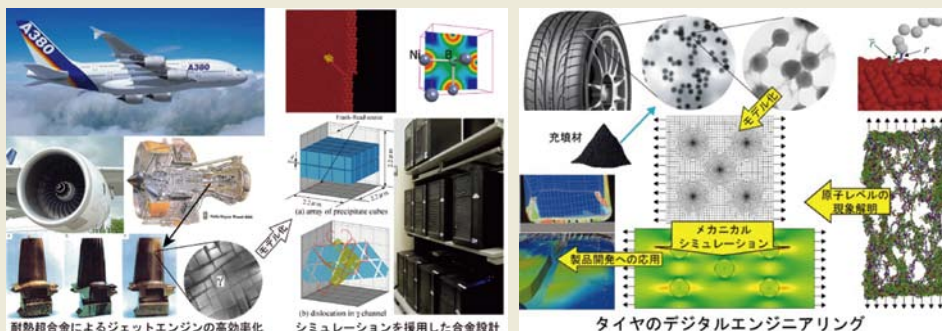
機械工学科
機械コース
やしろう きよさとし

屋代 如月 教授

(就任年月日平成26年10月1日)

平成26年10月1日付で着任いたしました。専門は計算材料科学で、数値シミュレーションにより各種固体材料の変形・破壊メカニズムを原子レベルから解明することを主な研究テーマとしています。「材料なくして機械なし」

機械構造物のイノベーションは、往々にして材料の高性能化や、これまでとはまったく異なる新しい特性を持つ材料の開発によってもたらされます。例えば、高性能・高効率なジェットエンジンは、高温に耐え、かつセラミックスのように一瞬で破壊してしまうことのない超合金の開発によって実現しています。ここで、様々な合金組成で試行錯誤しながら試作するコストはもとより、最も障壁となるのが試作した材料の変形・破壊特性の評価で、1ヶ月以上、場合によっては1年以上もジェットエンジンを模擬した温度と負荷をかけた破壊試験を繰り返して評価しています。このため、開発・実用化のスピードを上げるために数値シミュレーションによる変形・破壊特性予測が強く求められています。地震予知と同様、変形・破壊の予測は見果てぬ夢かもしれませんが、数値計算を駆使してその素過程に迫ることで、新しい材料の設計・開発につながることを期待しています。



数学・論理学に基づいたプログラム検証



電気電子・情報工学科
情報コース
くさかり けいいちろう

草刈 圭二朗 教授

(就任年月日平成26年3月1日)

この度縁あって、平成26年3月1日付けで電気電子情報工学科の情報コースに着任いたしました。専門は定理自動証明とその応用としてのプログラム検証です。

近年の計算機の実用には目覚ましいものがあり、人間には到底行えないような『計算』を簡単にこなすようになってきています。一方計算機は、少し数学的素養がある人なら簡単にこなすような『証明』すら行うことができません。これは、証明なるものを実行するには、単純な計算力だけではなく、なんらかの感性が要求されるためです。この『計算』と『証明』の間を繋ぐ理論こそが、私が専門としている定理自動証明です。また、その応用としてプログラム自動検証法の研究を行っています。この応用が可能なのは、プログラムを検証する際に必要となる様々な概念がある種の数学的な定理として定式化できるからです。

現代社会では、ほんの小さなプログラムのバグが致命的な問題を引き起こすことが多々あります。我々の研究を通して安全かつ安心なプログラムを作成するための手法を確立し安全・安心な社会基盤構築に貢献できればと考えています。また、教育を通してそのための人材を育てていければと考えています。

今後とも、よろしくお願いいたします。

国内産業につながる福祉ロボティクスを目指して



機械工学科
知能機械コース
まつした こうじろう
松下 光次郎 助教
(就任年月日平成26年11月1日)

平成26年11月1日付けで機械工学科にてニューアトラック助教として着任しました。私の研究分野は福祉ロボティクスであり、特に身体から生じる筋電・脳波などの生体信号を操作入力とするヒトの生活に役立つ運動補助／環境制御ロボットの開発を行っています。これまでの5年間は、脳外科医師・脳科学者らと共に「脳波によるロボットハンドのリアルタイム制御」「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)医療機器を目指した体内埋込型ワイヤレス脳波計測装置の開発」に従事し、福祉医療機器の実用化プロセスを経験しました。また、BMI研究を通して得た知識技術をもとに、生体信号計測に基づくモータ制御の教材を開発し、工学教育にも力を注いできました。

今後は、近年の介護・福祉ロボット産業の活性化の流れもありますので、地域の中小企業との協力関係を築き上げ、介護福祉ロボットの実用化・製品につながる研究開発および人材育成を行いたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。



「英語アレルギー」克服への挑戦



電気電子・情報工学科
応用物理コース
かわさき かつみ
川崎 睦 助教
(就任年月日平成26年4月1日)

平成26年4月1日付けで、着任しました。工学部の応用物理コースに所属し、工学部3年生の英語科目を担当しています。

岐阜に来る前は、出身地である岡山の中学校、高等学校で英語を教えていました。日本の大学で英米文学、言語学、英語教育を学んだ後、イギリスでも教員養成課程を修了しました(Celta・ケンブリッジ大学認定国際英語教員資格取得)。

主な研究内容は、日本と外国の教員免許状取得までの教員養成課程と入学試験等の比較、教材研究と開発、自立学習とモチベーションについてです。現在の研究は、現在高等学校で実施されている「英語の授業は英語で教える」というオールイングリッシュについての調査と、英語を専攻としない学生の長期留学が及ぼす英語学習に対するモチベーションの変化と英語運用能力の発達度合いを分析するものです。

中高大の英語教育を通して、「英語アレルギー」の生徒・学生を多く見てきました。工学部の学生の中にも英語が嫌い、苦手という人も少なくはないと思います。今後、教育と研究を通して学生の意識の中に少しでも「できる」「楽しい」という気持ちが生み出されるよう努力し、工学部そして大学全体の英語教育に貢献できればと思っています。



平成26年度 有機合成化学協会 有機合成化学奨励賞

化学・生命工学科 生命化学コース
芝原 文利 准教授

平成26年度有機合成化学協会有機合成化学奨励賞を受賞いたしました。この賞は、40歳までの国内の有機化学に携わる若手研究者のそれまでに行ってきた一連の研究を包括的に評価し、有機化学の分野の発展に大きく寄与する研究成果を挙げた認められた者、毎年5名程度に授与されるものです。

さて、受賞対象になった研究は、医薬品や機能性材料に多用される、様々な多置換複素環化合物の合成法の開発です。私はこの中で、ユニークな反応性を持つ

つにもかかわらず、「臭い」の問題から利用が敬遠されがちであった有機硫黄化合物の、「無臭な」合成法および変換反応を組み合わせた、新しい合成手法の開発、ならびにボストロックスカップリング反応として注目されている、有機金属反応剤を用いない、炭素-炭素結合形成反応による複素環への芳香環の直接導入反応の研究が特に評価されて受賞に至りました。振り返るとこれらの研究はきつかけから展開に至るまで、全て岐阜大学の地盤なしにはなし得な



2014年度 有機合成化学協会奨励賞 励賞

化学・生命工学科 生命化学コース
喜多村 徳昭 助教

本賞は有機合成化学または有機合成化学関連産業の分野で優れた研究または発明を行った若手の研究者に授与されるものであります。今回、「次世代医薬創出のための π - π 標識化法の開発」に関する成果が評価されました。陽電子放出断層撮影法（PET）は標識した化合物の体内分布を微量で高感度かつ定量的に観察できることから、創薬および医療分野において注目を集めています。PETで用いられる陽電子放出核種の多くは短寿命であるため、PET標識薬剤の合成

には高速化学反応が必要であります。Copper-catalyzed azide-alkyne cycloaddition (CuAAC) 反応は、末端アルキンとアジドが1価の銅触媒存在下で容易に反応して安定なトリアゾール環を形成する事から π - π 標識化に汎用されています。しかし、CuAAC反応で一般的に用いられる条件では、核酸オリゴマーの分解やタンパク質の構造変化が起るため、これらの生体高分子を用いる場合、高価な配位子を共存させる必要があります。私は、これまで環境調和型反応の開発に携わってきた

した。その経験を活かし、配位子が不要で室温で効率的に進行し、任意の核酸オリゴマーのPET標識化に適用可能なCuAAC反応を開発し、さらに、本手法がタンパク質のペプチドのPET標識化にも利用可能であることを示し、応用性を引き出しました。



平成26年度 化学・生物素材研究開発奨励賞

化学・生命工学科 生命化学コース
池田 将 准教授

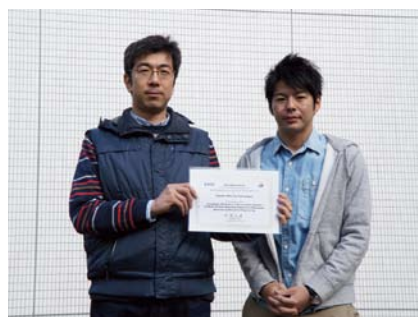
2014年10月15日に、「バイオ応用を目指した刺激に应答するナノ繊維からなるヒドロゲルの開発」に関する研究に関して、平成26年度化学・生物素材研究開発奨励賞（バイオインダストリー協会）を受賞致しました。

本研究は、前職である京都大学大学院工学研究科助教時代から浜地格教授の御指導のもと、多くの学生の不断努力と共同研究者の支えがあつて推進することができました。ここに心より感謝申し上げます。また、現在も岐阜大学北

出幸夫教授の御指導のもと学生と本研究を進め、更なる発展を目指しています。昨年は、着想から約7年の研究成果を、集大成として論文(Nature Chemistry誌にまとめたことも契機となり、その新規性や発展性が認められたものと考えています。

研究の具体的な内容としては、グルコースなどの生体分子の存在する水溶液を滴下すると溶けるゼリー状物質（ヒドロゲル）を開発しました。ゼリー状物質の中に医薬品を予め閉じ込めておくこと

で、特定の環境でその医薬品を放出する材料としての応用が可能になると期待されます。このような医療に活用可能な材料を、自ら設計・合成した分子から開発することを目標に研究を進めています。



IEEE 2014 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS2014) Best Paper Award受賞

電気電子・情報工学科 応用物理コース
新田 高洋 助教・石樽祐貴

IEEE International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS) は、1990年から名古屋大学が中心となつて開催されている国際会議で、MHS2014はちょうど25周年記念大会でした。参加者の講演内容は、マイクロロボットの医療への応用から、再生医療、細胞生物学など多岐にわたっていました。全体として機械工学と生物学との融合研究が共通のテーマとなっていました。海外からは、アメリカ、ドイツ、中国、インドネシアなどの大学から

の参加者がいました。

私たちが取り組んでいる研究テーマは、私たちの体内にある分子機械を生体外で工学利用しようというものです。私たちの体内には、モーター蛋白質と呼ばれる一群の蛋白質があります。このモーター蛋白質は、二足歩行や回転運動をする分子機械です。私たちはこのモーター蛋白質を生体外に取り出して、MEMSなどを駆動する研究を行っています。特に、私たちはコンピュータシミュレーションと実験の両面から、どのようにし

たら効率よくモーター蛋白質の機能を利用できるかを研究しています。受賞した講演では、シミュレーションの開発とそれから得られた知見について発表しました。

この受賞を励みに、研究にさらに発展させる所存です。



図1 吸収液スラリー



図2 通常の結晶成長

平成25年度 化学工学論文集優秀論文賞

機械工学科 機械コース
板谷 義紀 教授・小林 信介 准教授

受賞論文は「過飽和微細結晶スラリーによるLiBr・水系吸収式ヒートポンプ性能向上効果」で、温度が低いいため捨てられている100℃以下の熱を回収して、冷房や冷水あるいは100℃以上の蒸気を作る吸収式ヒートポンプという装置の高性能化を目指した基礎研究です。

吸収式ヒートポンプは動力が不要なため、これまで捨てられていた熱を回収して冷温や高温を作ることができ省エネルギー性の高い装置です。この装置は、吸収液の臭化リチウムの濃度を高くするほど、性能が良くなります。しかし、臭化リチウムの濃度が飽和濃度以上になると水溶液内に結晶が析出して、臭化リチウムの結晶が吸収液を循環させる流れを閉塞してしまい、装置トラブルを起こしてしまいます。

本研究では、臭化リチウムの結晶が吸収液内に析出して、その結晶が大きくなると成長せず多くの微細な結晶粒子になるだけで、臭化リチウム水溶液の流動性を維持することができる吸収液スラリーを安定的に作る技術を開発しました。このスラリーを使えば、同じサイズの装置でも冷熱や蒸気生成出力が2倍に向上することを理論的に明らかにしました。本研究成果は、廃熱を回収して有効利用できる有望な省エネルギー技術として期待され、炭酸ガス排出削減にも貢献できると考えています。

平成26年度 土木学会土木史研究発表会 優秀講演

社会基盤工学科 環境コース
出村 嘉史 准教授

学会土木史研究会は、これからの社会基盤づくりに資する「先端の」歴史研究が熱く議論される意義深い場ですが、近頃「口」して次世代を育成するための歴史教育の在り方が議論されることがあります。折しも平成25年から岐阜大学工学部で始まった新カリキュラムにおいて、社会基盤工学科に講義「土木史」を開講しましたので、この一連の取り組みを発表しました。会場に活発な議論を呼ぶことになり、高い評価を得て、嬉しいことに賞まで頂きました。

「土木史」の講義は、学科内で私が発案して、初年次の導入教育として位置付けられるようになったものです。発表では、学科内の各専門分野の先生方から同分野の存在意義や価値を示すような魅力的な講義を担当して頂けるようになった経緯や、講義構成上の工夫などを伝えました。課題の出し方についても大きな賛同を得たように思います。実際、授業評価アンケートなどによれば、社会基盤あるいは土木という分野に対してまだほとんど知らない1年生に、こ

の講義が与えるインパクトは大きいようです。今後もより改善し、多くの学生が自らの選んだ道の面白さに気づく契機になるよう、頑張りたいと思います。

岐阜大学工学部

所在地 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
問い合わせ先 岐阜大学工学部総務係 TEL 058-293-2365